「関心を高める」

中川運河のある特定の場所への関心ということではなく、中川運河全体、またはにぎわいゾーンへの関心を高めることができていけば、更に面白くなるのではないかと期待します。

地域への根付き

このアートック10事業を継続してきた中で、年々地域とのつながりがみえてきたように思います。コミュニティはもちろん、そこにいる人たち、とりわけ中川運河であれば、周辺の皆さんが作っているもの、ものづくりの人たちとのつながり、根付きとしてみえてきたことが、今回の大きな成果だったと感じます。

「場」を活かす

今回の提案の中では、中川運河の場所性を、運河そのものに限定することなく、より広い範囲で考えられていたと感じました。運河の近くを走る高速道路や、両側の道路など、そういうものを含める視点は今までにはなかった視点で、皆さんがそこに関心を持って下さったのはうれしいことです。

芸術性

「芸術」を定義するのは難しいですが、この助成で培ってきた視点としては、地域との関係も重要な要素です。表現としての芸術に寄りすぎることも、この助成の趣旨とはずれるし、逆に地域に寄りそうあまりに芸術の意義が失われることもあるかと思われます。何をもってこの助成の「芸術性」とするかは、今後も、申請者及び選考委員も含め、みんなで模索していくことであろうと思います。

実現性

採択が決まっていない段階で、活動場所の管理者とどこまで交渉できるのか、すべきなのかは、難しい問題です。それでも、何らかのアクションは必要であると思います。また、コロナ対策については、よく皆さん考えられていました。他方で、安全性・予算・スケジュールについては、課題が残っているような提案もありました。意欲は尊重したいですが、実現できるかどうかの検討を、特にプロジェクト部門ではお願いしたいと思います。